

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02438

研究課題名(和文) 子どもへの性暴力に対するトラウマインフォームド・ケア/システムの開発

研究課題名(英文) The development for Trauma-Informed Care/System against childhood sexual assault

研究代表者

野坂 祐子 (Nosaka, Sachiko)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：20379324

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：子どもの性暴力被害の発見と適切な対応のために、トラウマの知識を前提としたトラウマインフォームドケア(TIC)の実践の検討を行った。本研究では、1)保育士等を対象とした幼児の性的な行動の発現率の把握、2)支援学校における知的障害のある子どもの事例検討、3)養護教諭の保健指導にTICを取り入れたための資料作成を行った。結果、1)95名の回答から、3歳から性的な行動はみられ、とくに4～6歳でからだや性への探求行動が活発になることが示された。一方、有意に観察されにくいレアな性行動もあり、トラウマ等の影響の指標となる可能性が考えられた。2)と3)では事例検討をふまえてTICの対応例をまとめた資料を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

トラウマの指標となりうる幼児の一般的な性行動の調査は、これまで日本では行われておらず、今回の試行的な調査は、今後、臨床群との比較等によって性的トラウマの兆候を検討するうえでの基礎資料になる。また、トラウマインフォームドケア(TIC)が広がりを見せているなか、幼児や知的障害のある子どもへの適用はまだ十分に実践されておらず、保育園や支援学校の教職員を対象とした取り組みは、今後の進展につながるものと思われる。また、学校でのTIC導入について、本研究では養護教諭に特化した情報資料を作成した。これらの資料を公開することで、今後のTICの取り組みの広がりやより詳細な検討等につなげることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：A study was conducted to examine the practice of trauma-informed care (TIC), which assumes knowledge of trauma, for the detection and appropriate response to child sexual abuse. In this study, 1) assessed the incidence of sexual behavior in young children among childcare workers, 2) examined cases of children with intellectual disabilities in supportive schools, and 3) developed materials for incorporating TIC into health guidance for school nurses. The results showed that 1) sexual behaviors were observed from the age of 3 years old, and especially from the age of 4 to 6 years old, when exploration of the body and sexuality became more active. In the second and third sections, based on the case studies, we prepared materials with examples of TIC responses.

研究分野：教育心理学

キーワード：トラウマインフォームドケア 性暴力 養護教諭

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

児童虐待防止に関する法律や刑法の改正等の社会的動向を背景に、トラウマになりうる虐待や性暴力等の実態とその深刻さが明らかにされつつある。子どもは幼少期からトラウマにさらされる潜在的リスクが高く、実態に即した適切な介入は喫緊の課題である。

18歳までの被害体験や養育者との離別や度重なる変更、養育者の精神健康上の問題や収監等は、逆境の小児期体験 (Adverse Childhood Experiences: ACE) と呼ばれ、生涯にわたる心身の健康や社会適応等と有意に関連する (Fellite et al., 1998)。近年、思春期以降の非行や逸脱、自傷行為や自殺未遂、物質依存や犯罪等に起因する要因として ACE に着目した研究が重ねられ、ACE の影響をふまえた支援の有用性が示されている (SAMHSA, 2014; Waite, 2019; Asmundson & Afifi, 2019)。

こうした研究の流れからトラウマに焦点化した専門的セラピー (Cohen et al., 2004; Kameoka et al., 2020) とは別に、子どもの発達に影響を及ぼす ACE を含むトラウマを前提に子どもの言動を理解し、公衆衛生的な観点から日常で行える対応であるトラウマインフォームドケア (TIC) への注目が高まっている。TIC はトラウマや逆境に関する基本的知識を支援者が有し、発達に及ぼす影響を考慮しながら対象者を理解し、本人の状態に合わせた対応を行うことで、再トラウマを与えうる不適切な対応を防ぐためのアプローチである。日本では精神科看護領域 (川野, 2018) や児童福祉領域 (野坂, 2019; 亀岡, 2020)、学校現場 (大岡, 2018) での導入が報告されつつあるが、二次障害や再トラウマを防ぐためにも、より早期の介入や支援体制の構築が求められる。

子どものトラウマ反応は、多動・衝動性、集中力低下、性的言動の増加等で表されやすく、生得的特性や遊びとの判別が難しく見過ごされやすい。また、保育や教育等の集団生活のなかで個別の配慮と集団の規律をどのように両立させるかという戸惑いも強い。子どもの反応性に合わせた心理教育の実践など、子どもの能力や特性等に合わせた TIC のあり方を検討することは、教育及び臨床現場においてニーズの高い課題である。

2. 研究の目的

トラウマを公衆衛生の観点から捉え、学校や福祉施設等の職員が日常で取り組める実践を検討するとともに、トラウマや逆境体験に間接的に関与することによる支援者への二次的外傷性ストレスを考慮した資材等の開発を行う。とくに、支援ニーズが高いにも関わらず十分に取り組まれていない幼児や知的障害のある子どもへの TIC の実践を検討することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

【平成 30 年度】幼稚園及び小学校の保育士・教員を対象とした質問紙調査とヒアリング調査を実施し、低年齢の子どもの性的言動の頻度と養育者における懸念 (ニーズ) を把握する。

【平成 31 年度】知的障害のある子どものトラウマ経験やその影響について、支援学校の教員を対象としたヒアリングと事例検討を行い、障害の特性を考慮した学校での TIC 実践例のガイドラインを作成する。

【平成 32 年度】小学校から高等学校までの子どもの成長過程をふまえたトラウマ反応に関する事例の収集と学校での対応例について養護教諭を対象としたヒアリングと事例検討を行い、養護教諭向けの TIC の解説資材を作成する。

また、すべての年度において文献調査や実践に関する学会発表と論文化を行う。

4. 研究成果

【調査 1】幼児の性的発達の様相を把握するために、保育園・幼稚園、児童養護施設、児童相談所等の職員 (n=95) を対象とし、10歳以下の子どもに観察された性行動と職員の懸念等に関する質問紙調査を実施した。「3歳まで」「4~6歳」「7歳以上」の子どもについて 21項目の性行動の目撃頻度 (ある・たまにある・ない) を分析した結果、「3歳までに」みられ (目撃が「ない」よりも有意に「ある」とされたもの)、「7歳以上」まで経年的に減少していく性行動は「自分の性器をさわる、さする」「人前で平気で裸になる」「母親以外の女性

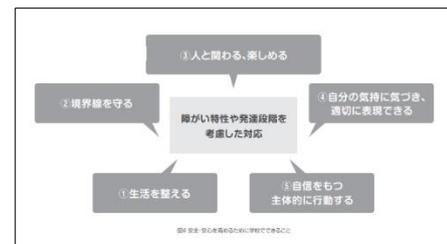
の胸を触ろうとする」であった。他の年齢と比べて「4～6歳」で有意に多く目撃されたのは、「ほかの子のスカートや衣服の中を見ようとする」「ほかの子のトイレを覗く」「同年齢の子どもとお医者さんごっこをする」「仲のよい子とキス(唇)をする」「赤ちゃんはどうやって生まれるのかをおとなに聞く」「人前で着替えをするのを恥ずかしがる」であった。

これらの結果から、幼児の性的発達として3歳から性的な行動はみられ、とくに4～6歳の幼児期後期はからだや性への探求行動が活発であり、妊娠や医療などの身近な社会的事象に関心を抱くのが一般的とみられた。一方、どの年齢においても「ない」が有意に高い性行動として「腫れたり傷ついたりするほど性器を触る」「性交に関する質問をし続ける」「性交の真似事をする」があったことから、これらは通常の発達における発現がレアであることから、何らかのサインを表す可能性が考えられる。今後、子どものトラウマ歴等による性行動の発現率の差を検討する際の基本的資料を得ることができた。自由記述では、子どもの性行動の判断や対応への困難さが挙げられ、指標となるリスト化のニーズが確認された。

また、米国で開催された子どもの性行動に関するシンポジウム (National Symposium on Sexual Behavior of Youth, 2018.June.26-28, at Center on Child Abuse and Neglect) に参加し情報収集を行うとともに、他の日本人研究者との共同発表: Current status and issues of treatment efforts for problematic sexual behavior of youth in Japan. において、子どもの性行動への介入について発表した。

【調査2】知的障害のある子どものトラウマ経験やその影響を把握し、障害の特性を考慮した学校での TIC 実践例のガイドラインを作成するために、近畿圏の高等支援学校を対象に、教職員との事例検討から課題と対応例を抽出した。

結果、「障がいや発達段階を考慮した対応」として教職員が重視した方向性は、①生活を整える、②境界線を守る、③人と関わる、楽しめる、④自分の気持ちに気づき、適切に表現できる、⑤自信をもつ、主体的に行動する、の5つであり、それぞれの領域での課題と対応例をまとめた(図参照)。また、学校ではトラウマのある子どもや保護者に対応することで教職員が二次受傷を受けやすく、その影響は教職員個々人の精神健康の悪化のみならず、教職員間の葛藤やスプリッティング(分裂)を生みやすく、学校組織がさらに脆弱になるという悪循環が生じやすいことが示された。



また、児童福祉領域における TIC に関する文献調査等のまとめを「トラウマティック・ストレス」及び「精神医学」等で論文化したほか、ここまでの科研の成果を単著にまとめた。

【調査3】小学校から高等学校までの養護教諭(のべ30名)を対象とした継続的なヒアリングと事例検討から、TICにおける心理教育と養護教諭の業務である「保健指導」の関連を抽出した。学校現場では、心理教育といった心理学的用語を用いることへの抵抗感がみられ、通常の業務で行っている保健指導の一環として TIC のアプローチを導入していく等の工夫が必要と考えられた。小学校から高等学校までの養護教諭にとって対応することが多い事例として、子どもの暴力的な行動と過呼吸が挙げられ、トラウマ症状であるフラッシュバックや解離、過剰覚醒との関連性を解説した資料を作成した。養護教諭の精神的負担を自覚し、軽減していく取り組みとして、セルフチェックとコンパッション、チーム支援を鍵とする支援体制づくりを提案した。作成した資料は、いずれも科研成果発表用のサイト (<http://csh-lab.com/>) で公開し、ダウンロードが可能なように設定している。

一方、研究対象予定であった幼児のトラウマ症状の把握と TIC の検討については、新型コロナウイルスの影響で調査協力を依頼していた乳児院と保育園(計3カ所)への訪問調査が延期され、文献調査に変更した。

まとめると、子どもへの性暴力の影響を理解し、適切な支援を考える際、トラウマだけでなく家庭の状況(家族機能)を含む幼少期の逆境体験に着目する必要性が確認された。施設や学校園においては、トラウマの理解や対応の基本は周知されつつあるが、知的障害や発達障害など特別なニーズのある子どもへの対応に苦慮しており、具体的な方策が求められている。本研究で示した取り組みの汎用性や有効性について、さらなる検討が課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 17
2. 論文標題 トラウマインフォームドケア：公衆衛生の観点から安全を高めるアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 80 - 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 SPECIAL ISSUE 2020
2. 論文標題 ジェンダーにおける加害者性と被害者性：トラウマティックな関係性の再演から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学 SPECIAL ISSUE	6. 最初と最後の頁 146-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 205
2. 論文標題 「安全」が怖い、「安心」できない ト라우マ関係の再演	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 118-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 206
2. 論文標題 トラウマを生き延びる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 112-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 207
2. 論文標題 トラウマと生きる社会をつくる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 176
2. 論文標題 「トラウマインフォームドケア」「トラウマスペシフィックケア」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 105
2. 論文標題 性暴力を理解し、“対話”を通して関係性を開く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代性教育研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 131
2. 論文標題 子どもの性暴力被害に気づくには 学校生活や性教育のなかでのさまざまなサイン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女も男も	6. 最初と最後の頁 47-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 1059
2. 論文標題 子どもへの性暴力の特徴	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 119-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 1060
2. 論文標題 性被害の影響と被害児へのケア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 119-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 1061
2. 論文標題 性問題行動の理解と加害児への支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 119-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 1062
2. 論文標題 性暴力からの回復と予防に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 119-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 199
2. 論文標題 「ウイルス」としてのトラウマ 発達への影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 113-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 200
2. 論文標題 日々の生活を支えるかかわり 「安全な体験」を積み重ねる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 185-189,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 201
2. 論文標題 トラウマにまつわるよくある誤解	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 92-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 202
2. 論文標題 組織の安全 なぜ「パンドラの箱」に怯えるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 126-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 203
2. 論文標題 公衆衛生としてのトラウマインフォームド・ケア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 113-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 204
2. 論文標題 加害者のトラウマを扱う	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 野坂祐子
2. 発表標題 トラウマの影響を受ける支援者と組織～安全・安心な関係性と場の創造のために～
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野坂祐子
2. 発表標題 きょうだい間性暴力の加害児と家族の理解と介入～在宅処遇ケースに対するグループアプローチから～
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Fujioka, Sachiko Nosaka, Takeshi Okuda, Nozomi Bando, Mayumi Mori
2. 発表標題 Current status and issues of treatment efforts for problematic sexual behavior of youth in Japan.
3. 学会等名 National Symposium on Sexual Behavior of Youth (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野坂祐子
2. 発表標題 性暴力被害者へのトラウマインフォームド・ケアを通してみるジェンダーの課題
3. 学会等名 第40回日本アルコール関連問題学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 野坂祐子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 192
3. 書名 トラウマインフォームドケア	

1. 著者名 藤岡 淳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 治療共同体実践ガイド	

1. 著者名 笠原 麻里、日本トラウマティック・ストレス学会編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 子どものトラウマ	

1. 著者名 日本健康心理学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 746
3. 書名 健康心理学事典	

1. 著者名 株式会社少年写真新聞社	4. 発行年 2019年
2. 出版社 少年写真新聞社	5. 総ページ数 288
3. 書名 体と心 保健総合大百科 中・高校編 2019	

1. 著者名 外山紀子・安藤智子・本山方子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 251
3. 書名 生活のなかの発達：現場主義の発達心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

子どもの性の健康研究会
<http://csh-lab.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------